

大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第8回地域生活部会議事録

文責：棧敷(事務局一部修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和7・8年度 第8回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和8年2月20日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 3階集会室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	長崎 未奈	小野 英次郎	山田 薫
	渡邊 優美	平井 有希子	広瀬 健次郎	棧敷 洋子
	区事務局：馬場 齋藤 小西 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1. 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・司会-伊藤部会長 書記-棧敷委員 ・令和8年度 域生活部会年間予定表について 作業部会は年間では予定せず、必要になった際に調整する。 8月は実施しない。 <p>(2) 中間報告作成の検討</p> <p>スライド2枚目 大田区の地域生活支援拠点の各機能について検討</p> <p>9月にサポートセンター職員向けに実施した「地域生活支援拠点」についての研修(講師 日本福祉大学綿教授)に部会長、副部会長も参加。</p> <p>地域生活支援拠点とは、「親なきあと(日中活動の場、居住の場、お金を含めて後見について支援)」を見据えた事業であることを確認した。</p> <p>また、第3回の部会から障害福祉課の前畑係長にオブザーバーとして参加いただく。区の動きについて説明してもらい、下記の5つの機能について検討をすすめた。</p> <p>①「相談」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆伴走支援(いろいろな場所で、繰り返し生育歴等を説明する大変さ) ☆そもそも相談が必要な人が、相談したい時にできているのか、それを支える仕組みがあるのか。 ☆親子の高齢化(いつまで親が子を支えるべきか。どのタイミングで相談すべきか) ☆保護者の理解啓発(手帳の取得方法等) ☆金銭管理 ☆行政との連携 <p>②「緊急時の受入れ・対応」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆緊急時に対応する為に、日ごろから情報を備えておく、事前に利用したい施設等へ相談する。 ☆全ての障害が該当するが、特に重症心身の方、医ケアのある方、強度行動障害のある方を中心に検討が必要。 ☆緊急時対応のフローチャートがあるといい。 ☆ネットワークづくり(さまざまな制度利用の必要性) ☆施設間の連携が必要。 <p>③「体験の機会・場」について</p>			

☆障害種別により体験ができるかできないかの差がある。
☆区内に重度障害の方の体験の場がない。
☆一般就労して生活していた人には情報が届きにくい。

④「専門的人材の確保・養成」について

☆育成より人材確保が最優先課題、特に重症心身の支援現場の人材不足が顕著。
☆研修においての大田区福祉人材センターとサポートセンターの役割分担を明確に。
☆事業所間交流の重要性

⑤「地域の体制づくり」について

☆拠点コーディネーターに全ての役割を集中させるのではなく、情報の整理、交通整理を担う役割が本来の姿ではないか。
☆会議体同士の「横のつながり」が十分でない。
☆フォーマルな連携だけでなくインフォーマルなつながりが必要。

本会において上記のスライドで足りない部分は部会長が口頭で補足する。

2. その他

- ・来年度、「セルフネグレクト」について検討する。
- ・「セルフネグレクト」を研究している東京医療保健大学教授の岸恵美子先生に勉強会を依頼できるか部会長の方で打診する。
詳細について次回以降検討する。
- ・次回：第9回「地域生活部会」令和8年5月19日（火）